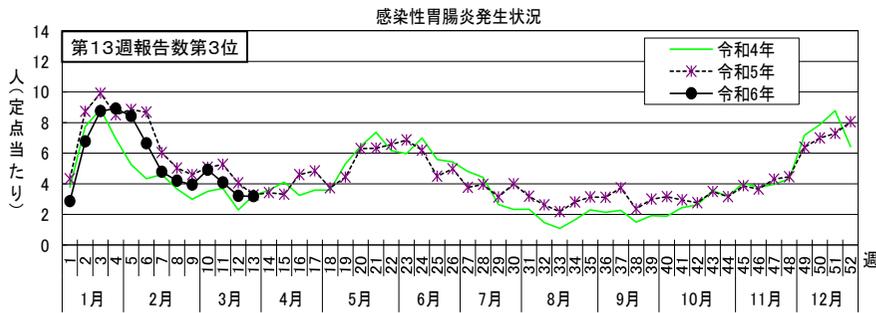
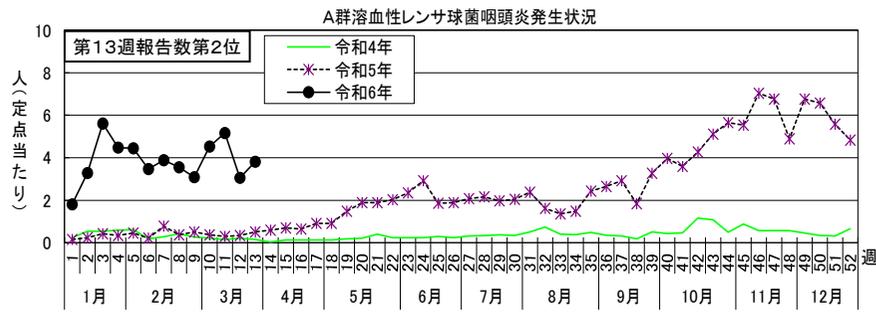
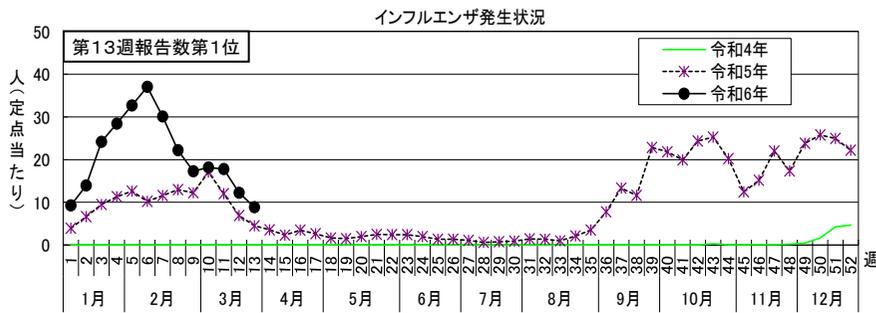


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年3月25日（月）～令和6年3月31日（日）〔令和6年第13週〕の感染症発生状況

第13週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 感染性胃腸炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は8.85人と前週（12.25人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.81人と前週（3.05人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.19人と前週（3.22人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



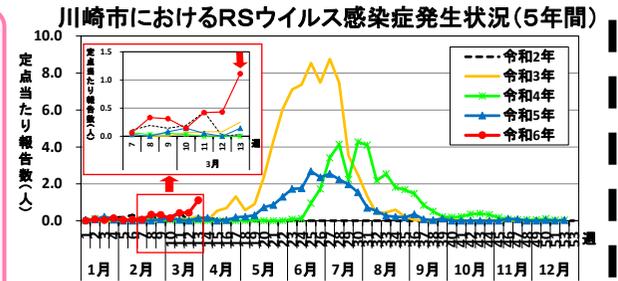
RSウイルス感染症の報告数が徐々に増加しています！

川崎市におけるRSウイルス感染症の定点当たり報告数は、令和6年第13週（3月25日～31日）に1.11人となり、第8週（2月19日～25日）以降、徐々に増加しています。以前は秋から冬にかけて流行していましたが、ここ数年は流行時期が早くなる傾向があり、特に今年は3月にもかかわらず報告数の増加がみられています。

RSウイルス感染症は、2歳までにほとんどの小児が感染するとされ、発熱、咳、鼻汁等の症状を呈します。多くは数日で軽快しますが、生後6か月以内の乳児や基礎疾患を有する小児は、細気管支炎や肺炎等を起こし重症化することもあります。お子さんの咳がひどい場合や熱が続く時、また、息が苦しそうな場合は、早めに医療機関に御相談ください。

RSウイルス感染症とは

- 【感染経路】
飛沫感染、接触感染
- 【潜伏期間】
2～8日（典型的には4～6日）
- 【症状】
発熱・咳・鼻汁等の風邪様症状
- 【予防対策等】
・おもちゃ、手すり等の消毒
・流水とせっけんによる手洗い
・体調不良の大人はマスク着用



RSウイルス感染症の重症化リスクが高い方

- 早産児や生後24か月以下で心肺に基礎疾患を有する小児
- 神経・筋疾患又は免疫不全の基礎疾患を有する小児
- 生後6か月以内の乳児